

**令和7年度第1回自立支援協議会テーマ別部会
教育と福祉の連携について 議事要旨**

1. 開催日時 令和7年8月27日（水） 10時～11時30分

2. 開催場所 まちづくり活動プラザ 1階会議室

3. 出席者 （委員）＊団体名のみ記載

パルレ、浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」、浦安市自閉症協会、
Japan 居場所づくりプロジェクト、認定NPO法人発達わんぱく会、（福）佑啓会、（福）敬心福祉会
浦安市こども発達センター、（一社）こども未来共生会、（福）千楽、NPO法人 アリスのうさぎ
浦安市教育センター／指導課／障がい事業課
（事務局）浦安市基幹相談支援センター

4. 議事次第

1. 開会

2. 議題

（1）令和7年度の部会を始めるにあたって

- ・テーマ別部会とは
- ・テーマ別部会のグランドルール
- ・教育と福祉の連携に関しての国の動き（厚労省、文科省、こども家庭庁）

（2）自己紹介

（3）プロジェクト構成と内容についての意見交換

3. 閉会

5. 配布資料

- ・次第
- ・学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）
- ・地域における教育と福祉の一層の連携等の推進について（通知）
- ・委員名簿

6. 議事要旨

1）令和7年度の部会を始めるにあたって（事務局より説明）

テーマ別部会発足の経緯及び、本部会は課題決にむけて委員皆で成果目標達成にむけてのプロジェクト型の部会であることから、未来志向且つ協働型の部会であり、参加者全員が主体的に取り組むことが重要であり、こどもたちの健やかな未来を創るためのビジョンの共有の場であることを説明。

2）自己紹介（以下、主な内容のまとめ）

- ・教育と福祉の連携がスムーズに行われているかと言えば難しい。この部会を通して、双方が連携することで、こどもたちが楽しく過ごせるようになればと思う。
- ・こどもたちのライフステージのつなぎ目の支援が大切だと思っている。教育と福祉が連携してこ

どもたちの事を考えていきたい。

- ・学校の先生方からの相談の9割が小学生を占め、中でも不登校の相談が多い。その原因がどこにあるのか、お子さんの特性や発達等についてアセスメントを行い、学校やご家族にフィードバックして環境調整に活かしてもらうように取り組んでいる。常日頃から教育と福祉の連携は欠かせないと思っていて、この場が連携促進の場になればと思っている。

- ・これまでの経験から、学校側の見立て、保護者の見立ての違いへの対応に悩むことが多かった

- ・部会のテーマは壮大だと感じる。障害者権利条約、こどもの権利条約などを踏まえながら、こどもの声を聴くことを大切にしたいと思っている。

- ・連携が具体的にどういうことが出来るのかアイデアを出しながら形をつくっていければと思う。教育機関との調整は保護者が担うことが多い。皆で知恵を出し合いながら何らかの成果を出していきたい。

- ・様々な立場の専門性が高い方たちが集まって、永遠のテーマである教育と福祉の連携について議論していけることは非常に貴重な機会だと思っている。

- ・かつての自立支援協議会のこども部会への残念な思いがあり、このテーマ別部会で子どもたちの人生がつながっていく、生活が良くなるようなきっかけを得ることが出来ればと期待している。こども本人の苦しさ、保護者の気持ちなど、教育における課題があると感じていて、そこを何とかしたい思いがある。

- ・障がいの有無に関わらず、こども時代において、教育を受ける場はこどもの人生の源泉であり、大切な場であったと思っている。団体としての振り返りを含め、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

3) プロジェクト構成と内容についての意見交換（以下、主な意見概要）

- ・工程内容が漠然としていることから、具体的な課題を出して、焦点化をした方が良い。

- ・課題を出す際の視点として、

- ① こども部会での議論で上がった課題抽出

- ② 具体的な当事者の声が反映したエピソード（事例）をもとに抽出

- ③ ①②の課題の原因分析

この一連の取り組みを実施することが重要。

- ・教育側が考える「連携」、福祉側が考える「連携」にズレがあるように感じる。一人のお子さんの支援を中心とした考え方になることは双方、間違いがないのだから、お互いに「連携」とは何か、求めていることは何かを言語化することが必要だと感じる。

可能な限り、現場の先生方の声を聴くことができると思う。

- ・上がってきた課題を整理する方法であるが、

- ①その課題に類する関係領域（制度、決まりごと、考え方、人的環境など）を整理していくと目標設定も明確になるのではないかと。

- ②ライフステージで整理する。

- ③好事例分析を行い、浦安での良い取り組み、他市での良い取り組みを知り、実際に他市の取り組みについて話を聞く場面もあれば、浦安なりの形ができるかと思った。

- ・各々がうまくできた「連携」事例を集めて、検証することも有意義な取り組みになるのではないかと。

・課題の一つとして、旗振り役の不在。現行制度では、計画相談支援にその役割が期待されていると思うのだが、国の制度だけでは限界がある。相談支援専門員は相当数の人数を担当ケースとして抱えているし、経営的な課題もある。支援者同士でつながることは一定程度、できるが未就学期から学齢期、学齢期から就労などつながる部分で崩れていく。

・学校に支援機関（福祉側）の業務内容や特性を知ってもらうことは必要だと思う。先生方も困っているのではないだろうか。

・地道にやっていくこと（継続）が必要だと思う。

これらの議論を経て、次回の部会開催にあたり、以下の通り論点整理を実施：

①課題だしを最初に行う（具体的なエピソードを出してもらう）

②具体的に取り組むことを絞る。情報共有（お互いに補完し合った方が良い情報）を整理して、知り合う

③①の課題出しは、次回部会前に行い、事務局が提出された内容を整理する。

④次回部会のための事前課題は、メール配信する。

⑤事前課題集計シートには、課題／原因／望ましい解決策／実際に実行したこと／望ましい解決策（連携策）／エピソードの状況

⑥子ども部会で議論されていた課題を整理する。

⑦事前課題提出締め切りは9/19とする。事前課題シートは事務局で作成して配信する。

⑧次回は、事前課題情報をもとに、取り組む課題と成果目標を決める。

⑨学校の先生方の声を可能な限り聴取する。

その他、今後の部会運営に際しての提言あり（以下、意見概要）

・壮大なテーマであることから、本部会で「ここまでできた」という整理を成果としても良いかもしれない。

・学校の先生、担任の先生、現場の人たち、校長先生、温度差があるのでは、と思っている。福祉の側は自分が動いていることに対して見通しが持てる（裁量権がある）。教育側は、そこがすごく難しいように感じる。縦の連携という話では、福祉側は顔ぶれが変わらない。担任の先生方は2年程度で変わっていく、縦の連携（校内連携でも大変だろうな）と思うと、学校側にとって何が難しいのか。本当の現場感、意見とか、実際の事例を課題出ているとよいと思う。保護者が調整する難しさも実体験をもとに痛感している。先生方が実際に何に悩んで、どんなサポートが出来て、困っているお子さんを担当したときに、何か課題を感じた時、先生方が一人で抱え込まないために何が必要か。

現場リアルな声をこの場で共有してもらえればと思う。

⇒先生方へのアンケート調査等は有効な取り組みになりえるか。